

第26章 大井戸上遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

大井戸上遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約1.4km、砂川堀の右岸で標高26～28mの台地上に位置する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。東台遺跡同様砂川堀との比高差は約7～8mで急崖をなし、左岸は緩やかな傾斜を成す。遺跡の範囲は東西200m、南北100m、遺跡面積約25,000㎡である。

周辺の遺跡は、砂川堀の対岸に大井氏館跡遺跡、同一崖線上の上流に西台遺跡、下流に東台遺跡と続く。

本遺跡は1989年に初調査以来、2019年4月現在、9地点で試掘調査が行われた。第1、2、4地点の調査では旧石器時代の礫群と石器群を検出した。西台遺跡から東台遺跡まで崖線上に連綿と旧石器時代の遺跡が存在していることになる。また、第2・3地点では崖線に沿って時期不明の溝跡を検出している。

II 大井戸上遺跡第7地点

(1) 調査の概要

調査は道路拡幅工事に伴うもので、原因者より2017年6月28日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2017年9月27日に試掘調査を実施した。

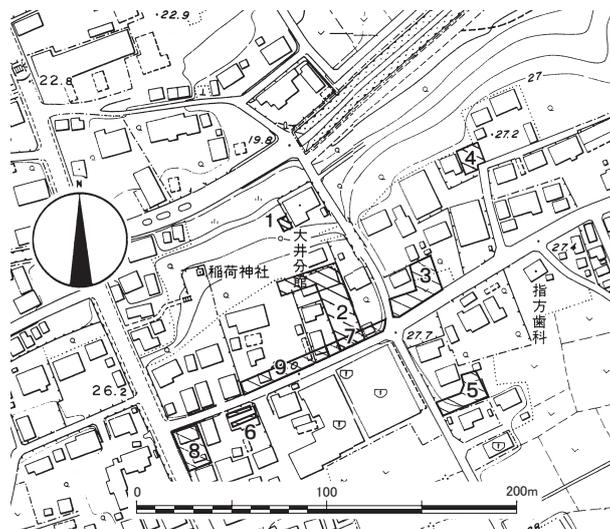
試掘調査は幅約1mのトレンチ2本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。現地表面から約40cmで地山ローム層を確認した。

調査の結果、近世以降のピット12基を検出した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

①ピット

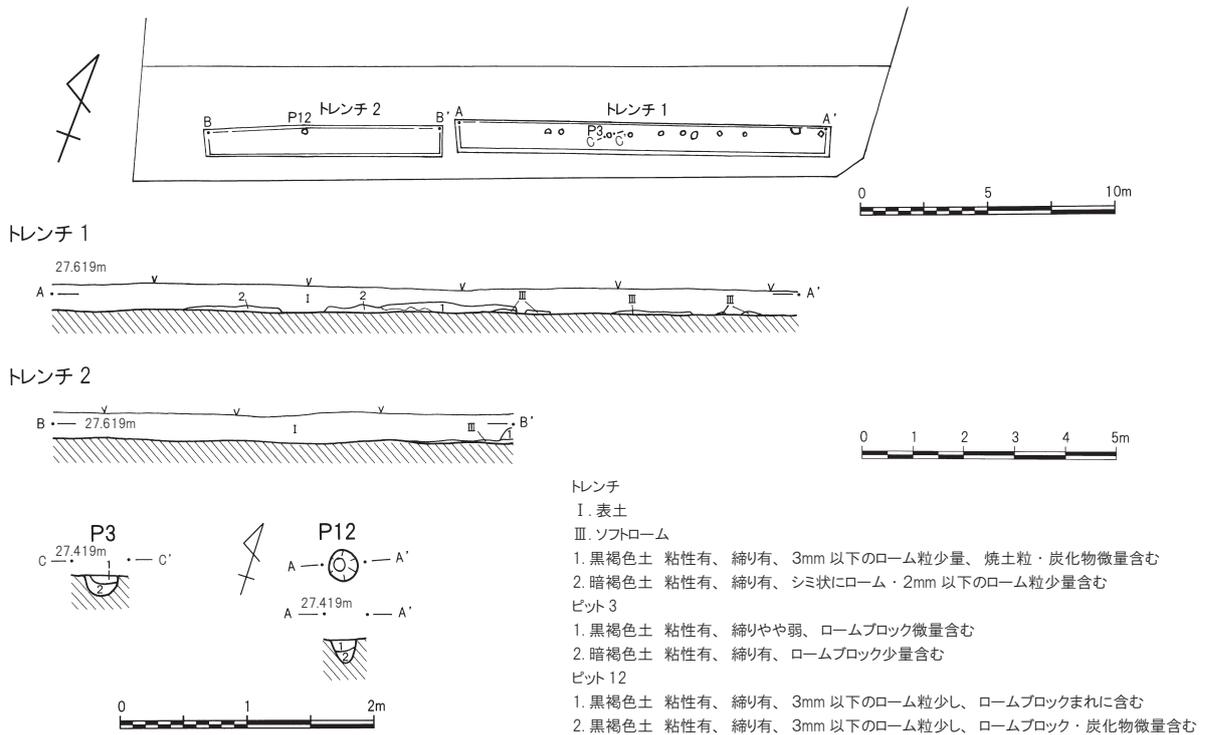
ピットはトレンチ1で11基、トレンチ2で1基の計12基確認した。土層からいずれも近世以降のものと考えられる。配列に規則性はなく、径20cm前後、深さ15～25cm程度に集中する。出土遺物はない。



第140図 大井戸上遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第 79 表 大井戸上遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	大井字東台 234	(1989.2.15 ~ 21)	10	公民館 の増改築工事	遺構なし、縄文土器、石器、礫、チョッピングツール未完成品	東部IX
2	大井字東台 231・ 232	(1989.6.22 ~ 7.20)	974	会社寮	柱穴跡、井戸、溝、ピット	東部X
3	大井 701-1	(1993.6.11 ~ 15)	350	個人住宅	遺構遺物なし	町内III
4	大井字東台 689-3	(2004.5.27)	128	個人住宅	礫群、土坑、焼礫	町内VII
5	大井字東台 739-14	(2006.7.10)	326	個人住宅	遺構遺物なし	市内 3
6	大井字東台 798-1	(2008.3.25 ~ 28)	889	個人住宅	ピット 49、遺物なし	市内 4
7	大井 231-1・2・8	(2017.9.27)	123	道路拡幅	ピット 12、礫	市内 24
8	大井字東台 798-4、 799-3	(2018.5.11)	200.01	駐車場	ピット 1、土器片、陶磁器	未報告
9	大井 229-2、232-8・ 9・10	(2018.8.6 ~ 13)	225	道路拡幅	遺構なし、古銭	未報告



第 141 図 大井戸上遺跡第 7 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)、ピット (1/60)



大井戸上遺跡第7地点ピット12



大井戸上遺跡第7地点トレンチ2